

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成29年4月～令和4年3月（5年）

1. 計画期間終了時点の中心市街地の概況

本市では、平成29年3月に基本計画の認定を受け、「行きたい街」、「住みたい街」、「活力ある街」を目指して事業を推進することとし、官民が一体となり活性化に向けた取組を進めてきた。

「行きたい街」では、「秋田市文化創造館整備事業」にて旧県立美術館を改修し、秋田市文化創造館として令和3年3月に開館することができた。一方で、「あきた芸術劇場整備事業」は計画期間内での開館には至らず、また、「旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備」は、事業実施のための調整が難航し実施に至らなかった。さらに、令和2年度当初からの新型コロナウイルス感染拡大による外出機会減少などの影響により、中心市街地の歩行者・自転車通行量は計画の前半の傾向とは異なり、減少傾向にある。

「住みたい街」では、「秋田版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）」により、地域社会との連携や医療ケアなどの機能を有した集合住宅「クロッセ秋田」が令和2年10月に完成した。民間施設だけで構成するCCRC（※）は全国初であり、高齢化社会においても安心して暮らせる居住空間の確保を図ることができた。

「活力ある街」では、「中心市街地商業集積促進補助制度」において目標を大きく上回る利用があり、中心市街地における旺盛な出店意欲が見られ、また、秋田市文化創造館の利用件数も順調に推移しており、利用の定着化が進んでいる。

この5年間の取組により、相次ぐマンション建設や地価の上昇など、中心市街地において活性化の兆しはみられるものの、目標の達成状況を考慮すると十分なものとは言えないことから、課題を検証した上で、今後も継続して活性化に取り組んでいく必要があるものと考えている。

※CCRC（Continuing Care Retirement Community）…中高齢者が、自立生活が可能ならちに入居し、必要に応じて介護・看護・医療などのサービスを受けながら、生活を送ることができるコミュニティのこと。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度10月1日、単位：人）

（中心市街地 区域）	平成28年度 （計画前年度）	平成29年度 （1年目）	平成30年度 （2年目）	令和元年度 （3年目）	令和2年度 （4年目）	令和3年度 （最終年度）
人口※ ¹	3,901	3,861	3,908	3,777	3,793	4,027
人口増減数※ ²	-29	-14	-34	-86	5	18
自然増減数※ ²	-26	-18	-15	-45	-32	-28
社会増減数※ ²	-3	4	-19	-41	37	46
転入者数※ ²	235	202	236	268	205	172

※1：秋田市人口世帯表（国勢調査の結果に基づく人口）より ※2：住民基本台帳より

秋田市人口世帯表は国勢調査をベースとして、住民基本台帳および外国人登録の移動状況等による届出を基に推計したものであるため、各年度の人口の差と人口増減数は一致しない。

(2)地価公示

(基準日：毎年度1月1日、単位：円/㎡)

	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (最終年度)
中心市街地商業地域 平均	87,380	85,340	85,080	85,620	86,660	86,300
中通2丁目35番 (商業地域)	167,000	163,000	163,000	166,000	170,000	170,000
中通2丁目236番2 (商業地域)	83,500	81,500	81,500	81,500	82,900	82,900
大町3丁目107番外 (商業地域)	62,500	61,000	60,500	60,500	60,500	60,500
大町5丁目17番1 (商業地域)	61,600	60,100	59,300	59,000	58,200	54,700
保戸野通町63番1外 (商業地域)	62,300	61,100	61,100	61,100	61,700	61,200

※地価公示(国土交通省)より

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**【進捗・完了状況】**

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画に位置付けた事業は全66事業であり、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベント等を含め継続的な事業が出来なかったものの、各取組を着実に実施し、概ね順調に進捗・完了したといえる。なお、「旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備」のみが未着手となっている。

実施中事業である「あきた芸術劇場整備事業」については、新型コロナウイルス感染拡大等により工期に遅れが発生し、計画期間中の開館に至らなかった。当施設は令和4年6月に開館、令和4年9月にグランドオープン(ホールの供用開始)を予定している。

中心市街地を取り巻く環境について、歩行者・自転車通行量は減少(歩行者・自転車通行量/32,484人<平成28年度>⇒20,539人<令和3年度>:対28年比63%)しており、にぎわい創出を図るには依然厳しい状況が続いている。

一方、このような状況においても計画における取組を着実に実施するとともに、新規事業を速やかに追加することで、負の影響を最小限に抑えることができた。

例えば、新規出店を促す商業集積促進関連制度の継続的な取組の結果、利用件数が181件(H29-R3年度の合計)に達した。

また、中通二丁目地区における地域社会との連携や医療ケアなどの機能を有する秋田版CCRC事業であるクロッセ秋田の整備や、芸術文化ゾーンにおける文化創造プロジェクトの拠点となる秋田市文化創造館の整備などの取組により、まさに新たな魅力が創出された。実際、市民アンケートでは「空き店舗や空きビルが多く、街として寂しい」と回答した割合は、計画策定時と比較し概ね半減した。

居住人口については、計画期間を通して自然減の影響が大きく、令和元年度まで減少傾向にあったが、令和2年度からは社会増が自然減を上回り、上昇傾向に転じた。具体的には、計画期間の累計での社会増減数は27人の増加となった。

さらに、中心市街地の道路環境の整備による利便性向上や街並みの変化が目に見える形になったことが民間再開発の呼び水となり、今後、中心市街地周辺にマンションの建設が5棟予定されている。

こうした状況から、未達成の目標指標はあるものの、今後の中心市街地活性化に繋がる期待感を持つことから、中心市街地は「若干活性化した」と認識している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中心市街地活性化基本計画が計画期間を終了し、計画に掲載している事業は、概ね順調に進捗した。

令和2年度に開館した秋田市文化創造館は想定以上の利用件数があり、市民の新しい活動の場となっている。さらに、令和4年6月にあきた芸術劇場ミルハスが開館することにより、芸術文化ゾーンの回遊性が向上し、更なるにぎわいの創出が見込まれる。

また、令和2年度に完成した多世代共生型のCCRCマンションであるクロッセ秋田が呼び水となり、今後、中心市街地に5棟のマンションが建設予定であることから、中心市街地の居住者増加によるにぎわいの創出が見込まれる。

一方で、未達成の目標指標もあり、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少が中心市街地活性化の障壁となったものと考えられる。

今後の社会情勢を考えると、活性化を図るにあたり、依然として厳しい状況が続くものと予想されるが、協議会、秋田市および商工会議所など関係機関の連携を強化し、計画期間終了後においても、活性化のための各種取組を推進していくべきと考える。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① 活性化した
- ② 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- ④ 計画策定時より悪化

【詳細を記載】

- ・ 調査方法 アンケート方式による調査
- ・ 調査地域 市内全域
- ・ 調査対象者 秋田市に居住する20歳以上の者
- ・ 配布数 5,387票（対象モニター数）
- ・ 回答数 1,256票（回収23%）
- ・ 調査時期 令和4年4月

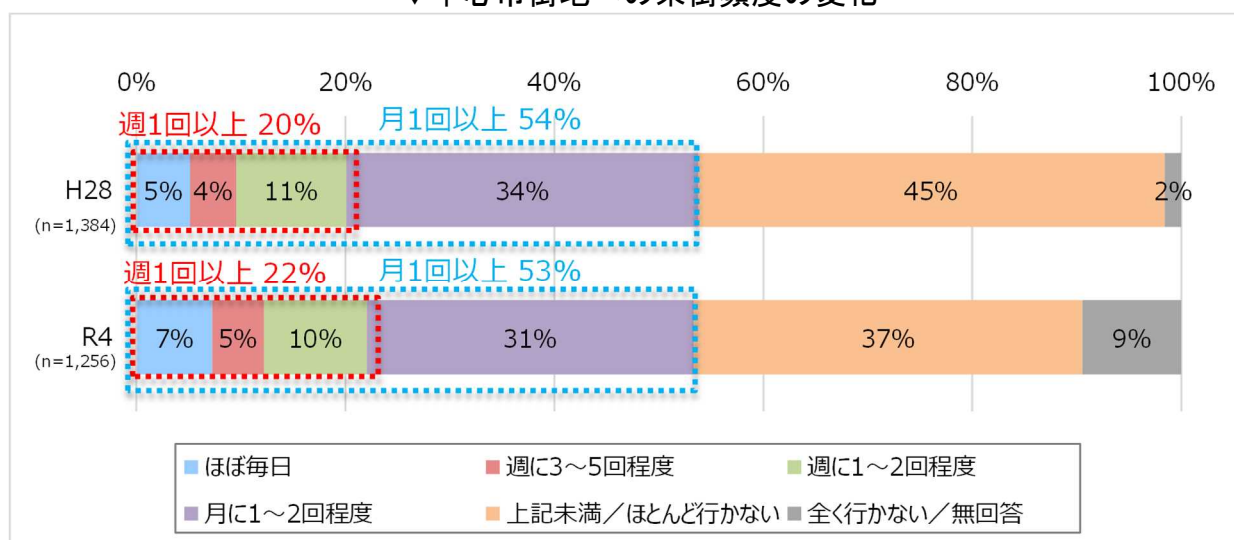
※平成28年に実施した市民アンケート調査の結果

- ・ 配布数 3,000票
- ・ 回答数 1,384票（回収率46%）
- ・ 調査時期 平成28年1月

<「中心市街地を普段どれくらい利用しているか」という設問について>

中心市街地への来街頻度は、週1回以上および月1回以上で、同程度の頻度を占めている。

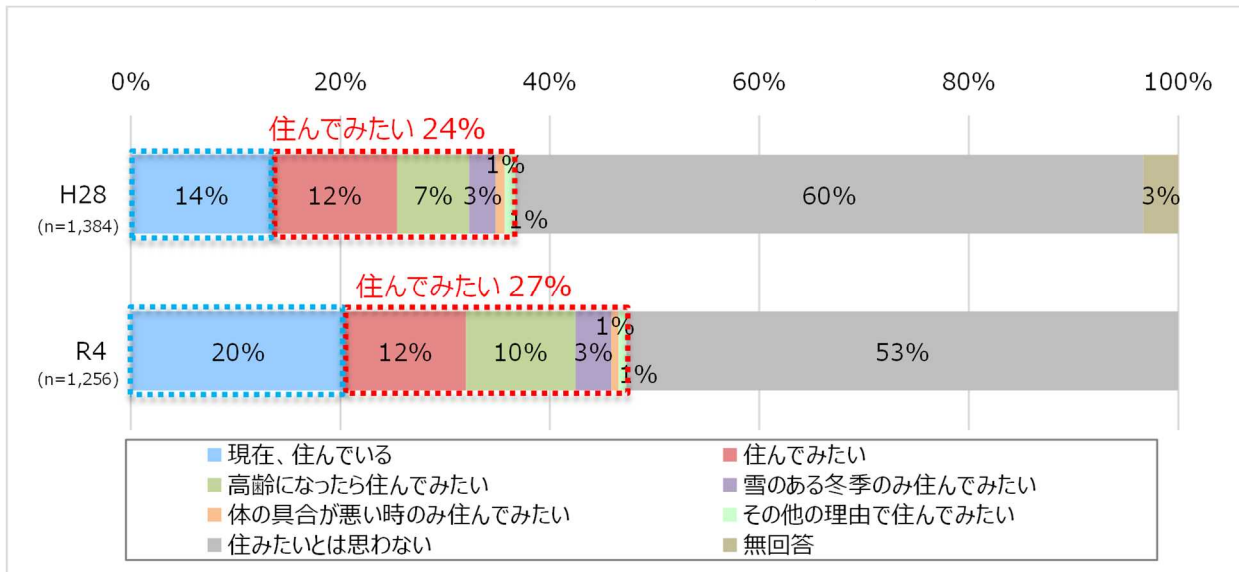
▼中心市街地への来街頻度の変化



＜「今後中心市街地に住むことについて興味はあるか」という設問について＞

中心市街地への居留意向は、既に現在住んでいる方は増加しており、何らかの理由で住んでみたいと回答した方も若干増加した。

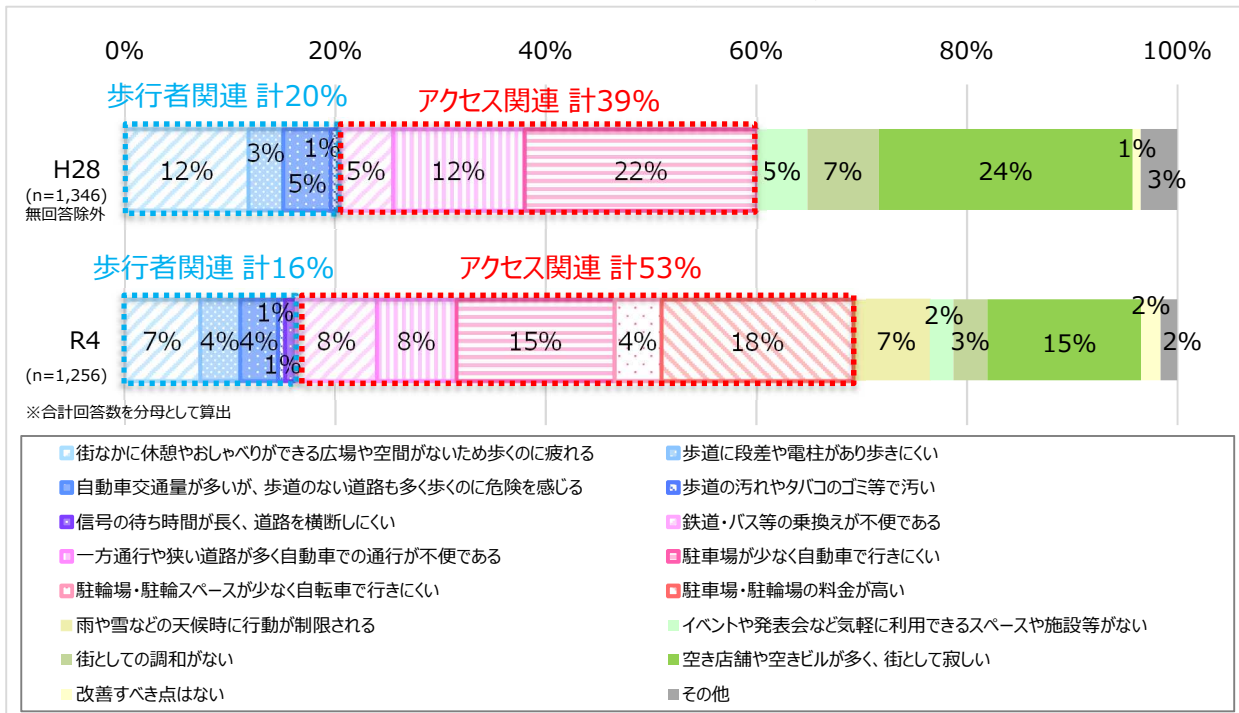
▼中心市街地への居留意向の変化



＜「中心市街地の環境で改善したほうがよいと思う点はあるか（3つまで回答）」という設問について＞

中心市街地の環境改善点は、中心市街地へのアクセスに関連した内容が増加している。「空き店舗や空きビルが多く、街として寂しい」の割合は減少している。

▼中心市街地の環境改善点の変化



※R4 調査では「信号の待ち時間が長く、道路を横断しにくい」、「駐輪場・駐輪スペースが少なく自転車で行きにくい」、「駐車場・駐輪場の料金が高い」、「雨や雪などの天候時に行動が制限される」の選択肢を追加

6. 今後の取組

本第2期計画では、「行きたい街」、「住みたい街」、「活力ある街」を目指して中心市街地の活性化を図ってきた。市民アンケート調査結果からは、週1回以上の来街頻度の向上や居留意向の増加が見られ、また、空き店舗等が多く街として寂しいと回答した人が計画策定前より減少したところである。

一方で、環境で改善したほうがよいと思う点に関して、交通アクセスに関連する項目の割合が増えていることから、関連する取組の実施可否も含めて検討する予定である。

今後は、これまでの官民連携を活かすとともに、「あきた芸術劇場ミルハス」の開館による芸術文化ゾーンの更なるにぎわい創出や、「広小路バザール」による屋外テントマーケットでの定期的なにぎわい形成を中心市街地全体へ波及させ、より魅力的なまちを目指していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
行きたい街	歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)	32,484人 (H28)	35,000人 (R3)	34,497人	20,539人	R3.7	<u>c</u>
	芸術文化施設利用者数(1日当たり)	966人/日 (H27)	1,530人/日 (R3)	1,417人/日	290人/日	R4.3	<u>c</u>
住みたい街	中心市街地における人口の社会増加数(累計)	26人 (H24~H28の累計)	240人 (H29~R3の累計)	197人	27人 (H29~R3の累計)	R3.10	B2
活力ある街	商業集積促進関連制度利用件数(累計)	34件 (H23~H27の累計)	50件 (H29~R3の累計)	47件	181件 (H29~R3の累計)	R4.3	A
	市民活動等施設利用件数	20,196件 (H27)	20,800件 (R3)	20,679件	17,082件	R4.3	C

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

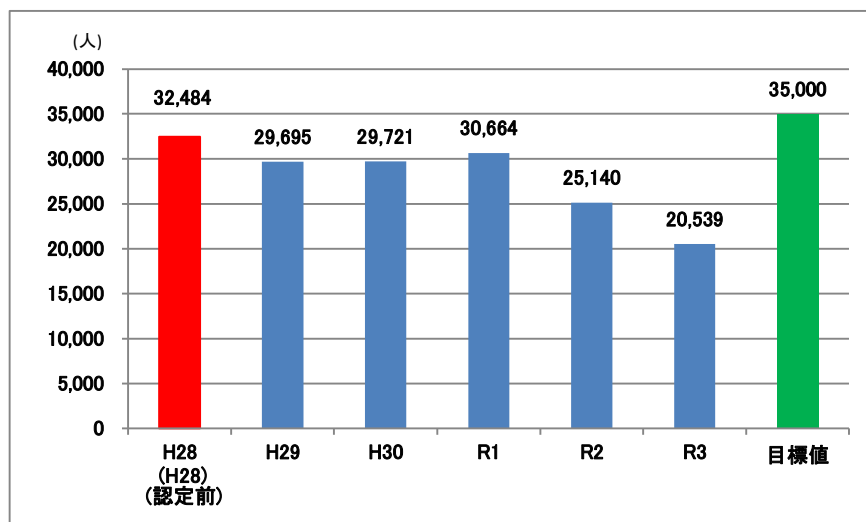
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。(注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)」(目標の達成状況【c】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P96~P110 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H28	32,484 (基準年値)
H29	29,695
H30	29,721
R1	30,664
R2	25,140
R3	20,539
R3	35,000 (目標値)

※調査方法：毎年7月後半の休日およびその直後の平日において、10時から19時までの歩行者および自転車による通行量(中学生以上)を計測する。

※調査月：7月

※調査方法：毎年7月

※調査主体：秋田市

※調査対象：中心市街地内 11 地点（フォンテAKITA前（仲小路側）、メガネ玉屋前、ヤマハ秋田店前、アトリオン前（広小路側）、木内前（広小路堀側）、キャッスルホテル前（仲小路側）、大町公園橋、山下金物店前、ぽぼろーど（東口側）、アトリオン前（仲小路側）、市民市場前）における中学生以上の歩行者および自転車の通行量

調査地点図



地点別内訳表

（単位：人）

	平成 28 年度 (計画前年度)	平成 29 年度 (1 年目)	平成 30 年度 (2 年目)	令和元年度 (3 年目)	令和 2 年度 (4 年目)	令和 3 年度 (5 年目)
1. フォンテ AKITA 前 (仲小路側)	9,635	8,325	8,574	8,398	7,838	6,326
2. メガネ玉屋前	759	613	689	668	616	663
3. ヤマハ秋田店前	913	705	679	659	634	548
4. アトリオン前 (広小路側)	1,446	1,098	1,247	1,375	898	809
5. 木内前 (広小路堀側)	1,407	1,499	1,437	1,455	1,298	1,115
6. キャッスルホテル前 (仲小路側)	978	888	964	976	590	407
7. 大町公園橋	307	228	286	265	164	128
8. 山下金物店前	1,286	1,451	1,248	1,196	1,118	824
9. ぽぼろーど (東口)	10,056	10,491	9,127	9,507	7,275	6,122
10. アトリオン前 (仲小路側)	4,123	3,096	4,132	4,863	3,149	2,614
11. 市民市場前	1,575	1,303	1,340	1,304	1,561	984
合計	32,484	29,695	29,721	30,664	25,140	20,539

※端数処理の関係で各地点の値の和は合計値と一致しない。

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、「あきた芸術劇場ミルハス」が開館していないため（令和4年6月に開館、令和4年9月にグランドオープン（ホールの供用開始）を予定）、事業効果が発現していない。

前回（令和2年度）フォローアップに関する報告では、新型コロナウイルス感染拡大が収束し各事業を継続的に実施することで達成可能と見込んでいたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続しており、達成とはならなかった。

また、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少の影響により、最新値は基準値を下回る20,539人となり、地点別内訳についてもほとんどの地点で昨年度を下回る結果となった。令和2年11月からの「クロッセ秋田」入居開始、令和3年3月の秋田市文化創造館開館といった新たな動きがあったが、それを上回る外出機会の減少といった状況であった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. あきた芸術劇場整備事業（県・市連携文化施設整備事業）

事業実施期間	平成29年度～令和4年度 [認定基本計画：平成29年度～令和3年度] 【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる県民会館および秋田市文化会館の機能を集約した県民・市民の芸術文化活動の拠点となる文化施設を現県民会館所在地に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 1,030人/日 最新値 0人/日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当該事業は予定どおり完成させることができなかった。これは、新型コロナウイルス感染拡大等の影響を受け、工事工程に遅れがでたためである。
計画終了後の状況及び事業効果	令和4年3月に本体工事が完成。外構工事の一部（駐車場への通路）が令和4年5月に完了予定。 なお、各ホールの予約受付を開始し、大ホール（約2,000席）、中ホール（約800席）の令和4年度分は多くの予約が見込まれるため、施設がオープンすることにより、歩行者・自転車通行量が増加すると考えている。
事業の今後について	令和4年6月に開館、令和4年9月にグランドオープン（ホールの供用開始）を予定している。令和4年9月には著名なピアニストと交響楽団によるこけら落とし公演が予定されており、施設が開館することにより、訪れる人による歩行者・自転車通行量の増加が期待される。

②. 秋田市文化創造館整備事業（秋田市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	空きビルとなっている旧県立美術館を改修し、市民が創造・発信できる多様な活動の場として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（平成 29 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値 632 人／日 本事業の完了により、1,514 件／年の施設利用件数があり想定していた 524 件／年を大きく上回っている。周辺地点における歩行者・自転車通行量の目標値は達成していないが、市民活動のために訪れる人による歩行者・自転車通行量の増加に繋がったと考えている。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は令和 2 年度に改修工事が完了し、令和 3 年 3 月に開館した。当該施設付近の歩行者・自転車通行量は、最新値では木内前（広小路堀側）1,115 人、アトリオン前（広小路側）809 人となっており、基準値である木内前（広小路堀側）1,407 人、アトリオン前（広小路側）1,446 人を下回っている。これは、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響が原因であると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	本館が整備され、市民活動の場が広がった。秋田県内外の多様な分野の専門家やクリエイターを招聘し、新たな活動を推進することや、市民活動のステップとなる講座やワークショップを開催した。新型コロナウイルス感染拡大の収束により、本館を訪れる人が増加することで、歩行者・自転車通行量の増加が期待される。
事業の今後について	指定管理者と連携しながら、市民の創造力を育む学びと出会いの機会、活動のための環境等を提供し、通行量の増加を図っていく。

③. 秋田版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）（民間）

事業実施機関	平成 29 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	地域社会との連携や医療介護ケアなどの機能を有し、秋田市における CCRC のモデルとなるような、健康な中高齢者向け共同住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地共同住宅供給事業（国土交通省） （平成 29 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 336 人／日 本事業完了により全 60 戸が完売し、居住者による通行量が増加し、にぎわい創出に繋がったと考えている。
達成した（出来なかった）理由	本施設は令和 2 年 11 月にオープンした。当該施設付近の歩行者・自転車通行量は、最新値ではアトリオン前（仲小路側）2,614 人となっており、基準値である 4,123 人を下回っている。これは、居住者による通行量の増加以上に、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛が影響したものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	本施設が整備され、居住者による通行量が増加したと考えている。新型コロナウイルス感染拡大が収束することで、当初想定していた居住者の通行量に加え、本施設内のテナントを訪れる人による歩行者・通行量増加も期待される。
事業の今後について	令和 4 年 4 月にクリニック、銀行、カフェなど、全てのテナントが埋まった。今後も居住者および訪れる人による歩行者・自転車通行量増加が期待される。

④. 旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備（民間）

事業実施機関	平成 29 年度～令和 3 年度【未】
事業概要	長年未利用となっていた地元新聞社跡地（市有地）を活用し、商店街の核となるコンパクトな職住一体型商業施設等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 790 人／日 最新値人 0 人／日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当該事業は目標通りに実施することができなかった。これは、事業施行者において、事業実施のための調整が難航したためである。
計画終了後の状況及び事業効果	事業着手に向け、HP の作成や質問会を行っていたが、計画終了後において事業着手に向けた具体的な動きは見られていない。
事業の今後について	隣接地において整備中であった秋田市まちなか観光案内所（国登録有形文化財を移築）が、令和 3 年 3 月に完成し、観光案内所としてオープンしたことから、市外からの来訪者等により一定程度のにぎわいが創出されていくことを期待している。

●今後の対策

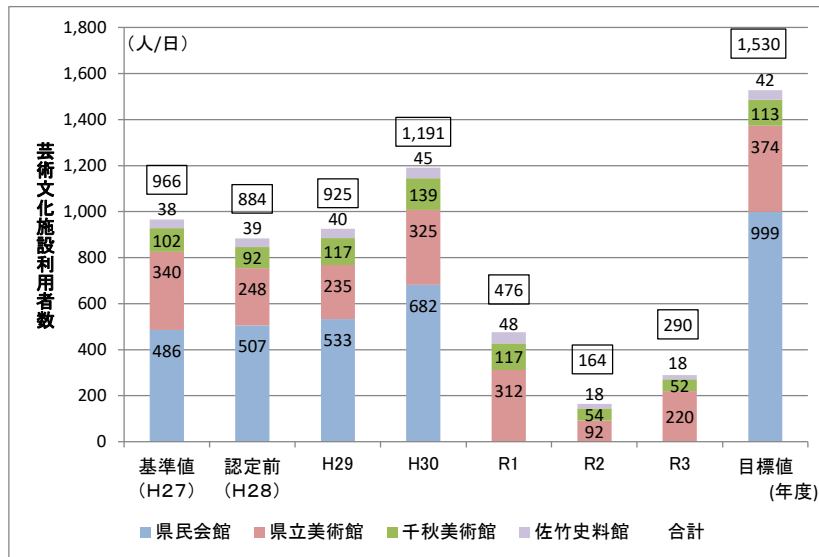
「あきた芸術劇場整備事業」の完了の遅れ、「旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備」の未着手、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、目標は達成できなかった。しかしながら、芸術文化ゾーンにおいては「秋田市文化創造館整備事業」により、新たなにぎわい創出の拠点整備され、「あきた芸術劇場整備事業」とともに千秋公園に至る一帯に関して今後の活性化が期待される。また、商業・業務ゾーン（駅前）においても「秋田版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）」により、まちなか居住が進んだ。

今後はこのような官民による投資効果を中心市街地全体に波及させることで、歩行者・自転車通行量の増加を目指していく。

(2)「芸術文化施設利用者数(1日あたり)」(目標の達成状況【c】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P111 参照

●調査結果と分析



年	(人/日)
H27	966 (基準年値)
H28	884
H29	925
H30	1,191
R1	476
R2	164
R3	290
R3	1,530 (目標値)

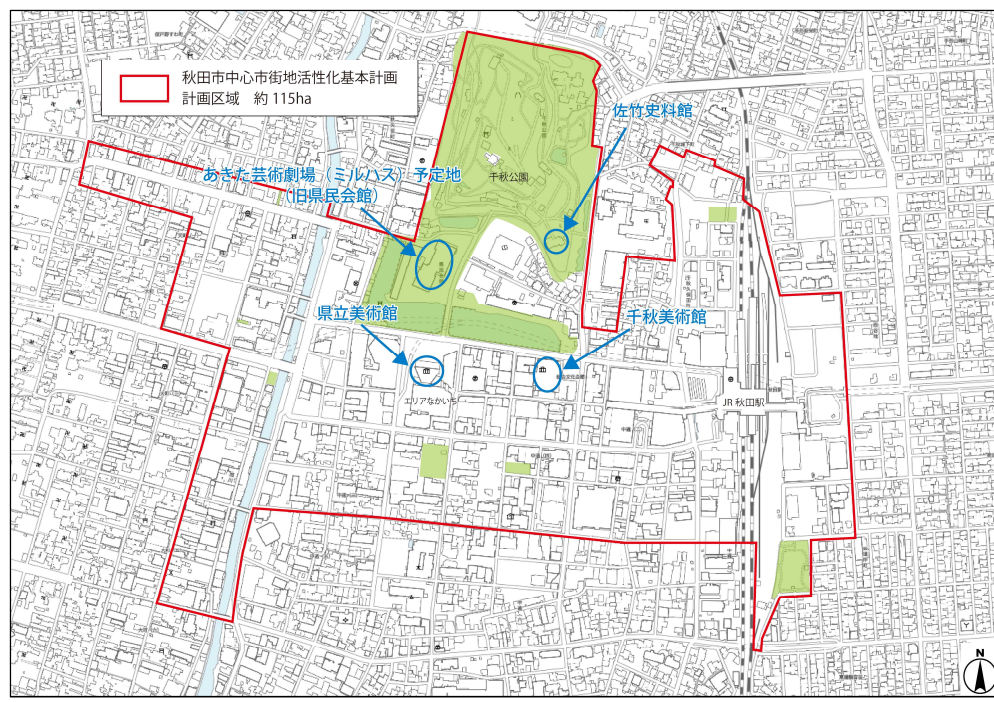
※調査方法：中心市街地内の芸術文化施設である、あきた芸術劇場、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の1日あたりの平均利用者数の合計。なお、令和4年6月開館予定のあきた芸術劇場ミルハス完成までは、既存の県民会館利用者数をもとに調査を行う。

※調査月：4月(前年度の利用実績をもとに調査)

※調査主体：秋田市

※調査対象：あきた芸術劇場(旧県民会館)、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の利用者数

調査地点図



地点別内訳表

(単位：人／日)

	平成 27 年度 (基準値)	平成 28 年度 (計画前年度)	平成 29 年度 (1 年目)	令和 30 年度 (2 年目)	令和元年度 (3 年目)	令和 2 年度 (4 年目)	令和 3 年度 (5 年目)	目標値
1. 旧県民会館	486	507	533	682	0	0	0	0
2. 県立美術館	340	248	235	325	312	92	220	374
3. 千秋美術館	102	92	117	139	117	54	52	113
4. 佐竹史料館	38	39	40	45	48	18	18	42
5. あきた芸術劇場	0	0	0	0	0	0	0	999
合計	966	884	925	1,191	476	164	290	1,530

※端数処理の関係で各地点の値の和は合計値と一致しない。

〈分析内容〉

芸術文化施設利用者数（1日当たり）の増加に向けた各事業について、「あきた芸術劇場整備事業」は計画期間内の開館とならなかったため（令和4年6月に開館、令和4年9月にグランドオープン（ホールの供用開始）を予定）、計画策定当初に想定していた目標値 999 人の利用者数が見込まれなくなった。

前回（令和2年度）フォローアップに関する報告においても、あきた芸術劇場ミルハスは新型コロナウイルス感染拡大による工期延長の影響により目標達成困難と見込んでいた。

令和3年度においても新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外出機会の減少が利用者数の減少につながったものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① あきた芸術劇場整備事業（県・市連携文化施設整備事業）（再掲）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 4 年度 [認定基本計画：平成 29 年度～令和 3 年度] 【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる県民会館および秋田市文化会館の機能を集約した県民・市民の芸術文化活動の拠点となる文化施設を現県民会館所在地に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（平成 29 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 999 人／日 最新値 0 人／日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当該事業は予定どおり完成させることができなかった。これは、新型コロナウイルス感染拡大等により、工期に遅れがでたためである。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 4 年 3 月に本体工事が完成。外構工事の一部（駐車場への通路）が令和 4 年 5 月頃に完了する予定。 なお、各ホールの予約受付を開始し、大ホール（約 2,000 席）、中ホール（約 800 席）の令和 4 年度分は多くの予約が見込まれるため、施設がオープンすることにより、芸術文化施設利用者数が増加すると考えている。
事業の今後について	令和 4 年 6 月に開館、令和 4 年 9 月にグランドオープン（ホールの供用開始）を予定している。令和 4 年 9 月には著名なピアニストと交響楽団によるこけら落とし公演が予定されている。

②. 文化創造プロジェクト推進経費（秋田市）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	秋田市文化創造館を拠点に、芸術・文化・歴史などの地域資源を生かし、市民とともにまちづくりを進める文化創造プロジェクト（イベントやネットワークづくり等の取組）を継続的に実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成30年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 48人／日 目標値を設定した際の見込み（事業目標値）は本事業により既存施設の利用者数が基準値から10%（48人）増加するとしていた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少などの影響により、事業効果の発現が数値として表れなかった。
達成した（出来なかった）理由	芸術文化施設利用者数は290人になっており、目標を達成することができなかった。これは、新型コロナウイルス感染拡大により、あきた芸術劇場ミルハスの開館が遅れたことが要因として考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	令和3年3月に整備された文化創造館において市民とともに食、工芸、生活・産業、美術、舞台の5つの分野について調査・研究と創作活動を実施した。 目標指標とした芸術文化施設利用者数の達成には至らなかったが、中心市街地内での創作の場の拡大に貢献したと考えている。
事業の今後について	令和4年度も継続して事業を行い、「芸術文化ゾーン」の魅力向上を図っていく。

●今後の対策

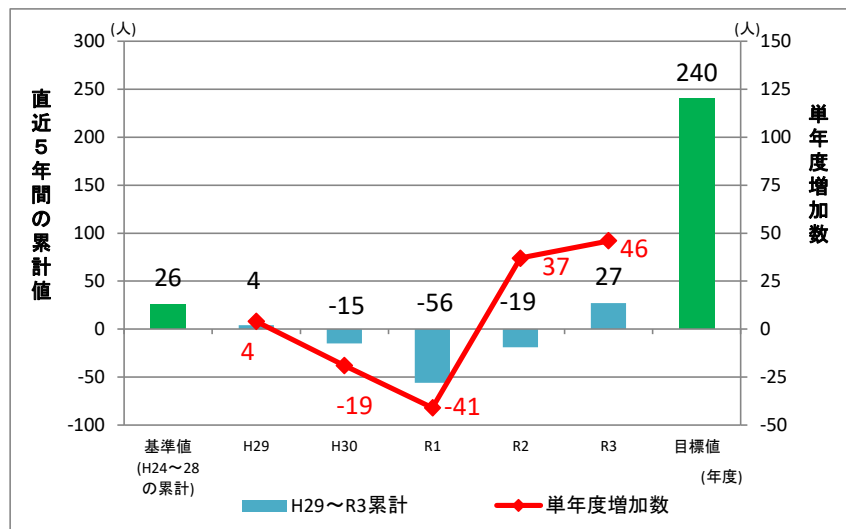
「あきた芸術劇場整備事業」の完了の遅れ、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、目標は達成できなかった。しかしながら、秋田市文化創造館の開館（令和3年3月）により、芸術文化ゾーンにおける魅力向上といった活性化の兆しがみられている。

今後は、あきた芸術劇場ミルハスの開館が控えていることから芸術文化ゾーン全体の価値を高め、「芸術文化の香り高いまちづくりと中心市街地活性化」を進めていく。

(3) 「中心市街地における人口の社会増加数(累計)」(目標の達成状況【B2】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P112～P114 参照

●調査結果と分析



年	(人)
	26 (基準年値) H24~28の累計
H28	-
H29	4
H30	-15
R1	-56
R2	-19
R3	27
H29~R3の累計	240 (目標値)

※調査方法： 中心市街地を包括する11字について、毎年10月1日時点における過去1年間の人口社会増加(転入・転出数の合計)を集計する。

※調査月： 10月

※調査主体： 秋田市

※調査対象： 中心市街地を包括する11字(大町一丁目、大町二丁目、保戸野通町、千秋久保田町、千秋明德町、千秋公園、中通一丁目、中通二丁目、中通三丁目、中通四丁目、中通七丁目)における人口の社会増減

令和3年度地区別社会増減数

	転入(人)	転出(人)	社会増減
千秋公園	0	0	0
千秋明德町	2	11	-9
千秋久保田町	31	23	8
大町一丁目	22	14	8
大町二丁目	3	2	1
中通一丁目	27	16	11
中通二丁目	20	6	14
中通三丁目	29	25	4
中通四丁目	12	10	2
中通七丁目	16	12	4
保戸野通町	10	7	3
合計	172	126	46

令和2年度地区別社会増減数

	転入(人)	転出(人)	社会増減
千秋公園	0	0	0
千秋明德町	9	13	-4
千秋久保田町	27	32	-5
大町一丁目	21	13	8
大町二丁目	1	3	-2
中通一丁目	42	29	13
中通二丁目	16	8	8
中通三丁目	36	35	1
中通四丁目	22	12	10
中通七丁目	17	9	8
保戸野通町	14	14	0
合計	205	168	37

〈分析内容〉

人口の社会増加数（累計）に向けた各事業については、概ね順調に完了した。

しかし、全国的に人口減少している中、秋田市においても令和元年度まで社会増減数が減少し続けていたことが影響し、クロッセ秋田が完成したことなどにより、令和2年度は37人の社会増、令和3年度は46人の社会増と、上昇傾向に転じたものの、計画期間の累計で評価すると27人の社会増であり、目標値である240人の社会増の達成には至らなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① まちなか居住推進事業（空き家定住推進事業）（秋田市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	区域外からの転入者を対象に、中心市街地内の空き家バンク登録物件等について、居住するための改修等を行う場合、工事費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）（国土交通省） （平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 46人の居住者増加 令和3年度は空き家バンク登録物件がなく、本事業による補助金の申請はなかった。
達成した（出来なかった）理由	計画期間を通じて中心市街地内での空き家バンク登録物件がなく、本事業による補助金の申請がなかったことが要因である。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内での空き家バンク登録物件はないが、中心市街地外では、事業が活用されており、利用希望者の条件と空き家の条件とのマッチングが難しいことや、移住希望者へのPR手法を工夫する必要があることが課題として挙げられる。
事業の今後について	令和元年度に拡充した補助制度（補助対象に民間の不動産物件を追加）について、今後も、これまで以上に周知を図り、空き家の利活用による移住・定住を促進していく。

②. 秋田版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）（民間）（再掲）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	地域社会との連携や医療介護ケアなどの機能を有し、秋田市における CCRC のモデルとなるような、健康な中高齢者向け共同住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地共同住宅供給事業（国土交通省） （平成 29 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 140 人 本事業完了により全 60 戸が完売し、居住者増加に繋がったと考えている。
達成した（出来なかった）理由	本施設は令和 2 年 11 月にオープンした。全 60 戸が完売したものの、全国的に人口減少している中、秋田市においても令和元年度まで社会増減数が減少し続けていたことが要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	本施設が整備され、中心市街地内の居住者が増加した。現在分譲部分は完売している。本施設が中心市街地内に相次ぐ分譲マンションの建設の呼び水となっていると考えている。
事業の今後について	令和 4 年 4 月にクリニック、銀行、カフェなど、全てのテナントが埋まったことから、入居者等による新たなコミュニティ形成が図られていくものとする。

③. 住宅リフォーム支援事業（秋田市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	住宅リフォームへの支援により定住の継続を図るとともに、マンション等の空き室の活用促進と移住促進による定住人口の増加を図る。平成 29 年度から、中心市街地においては他地区よりも有利な支援を行っている。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業と一体の効果促進事業）（国土交通省） （平成 29 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 37 人 令和 3 年度は想定 5 件に対し、7 件の実績があり、定住の継続が図られた。
達成した（出来なかった）理由	パンフレット等を用い、事業について積極的に PR したことが想定よりも多い実績に繋がったものと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	平成 23 年度の制度開始から令和 3 年度で 11 年目となり、事業年数も 10 年以上経過しており、また、住宅につき 1 回限りの補助制度であるため、過去に補助金を利用した市民から、再度の利用を望む声が多数あった。 このため、補助金の利用制限および補助対象工事などの見直しを行い、継続して事業の利用を推進し、居住環境の質の向上と建設業界等への経済波及効果を図った。
事業の今後について	今後も制度の見直しを図りながら事業を継続し、既存ストックの有効活用により、中心市街地からの転出防止と定住人口増加を図っていく。

●今後の対策

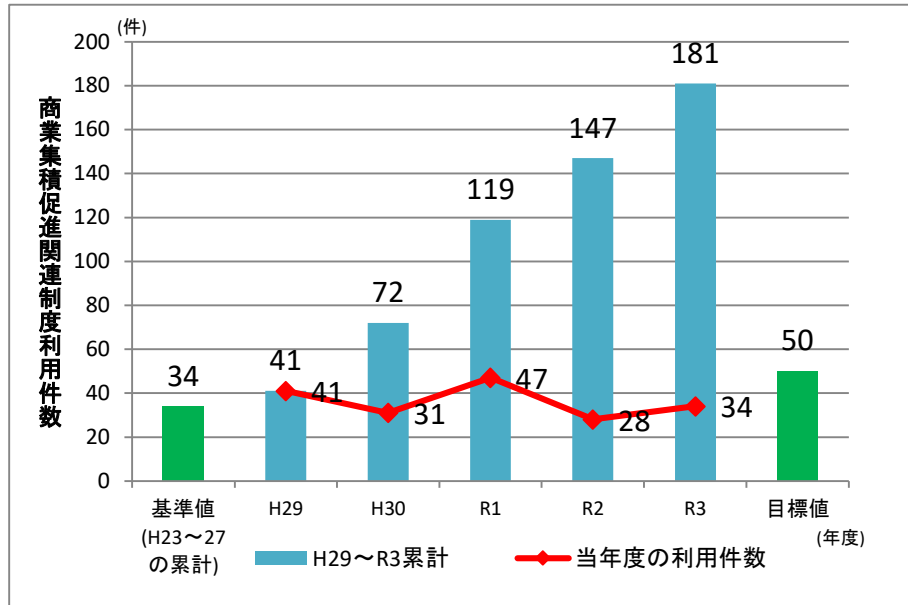
中心市街地における人口の社会増加数（累計）については、令和 3 年度は 46 人増加となり、計画期間中の平成 29 年度～令和 3 年度の累計では 27 人の増加となったが、目標は達成できなかった。増加要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた市外への転出減少、「秋田版 CCRC 事業」によるクロッセ秋田への入居増加などがあった。

今後は、「秋田版 CCRC 事業」を呼び水として、中心市街地周辺にマンションの建設が 5 棟予定されており、居住人口の増加が期待される。既存ストックの活用の面では、住宅リフォーム支援事業などを活用しながら、中心市街地全体の魅力向上により人口の社会増を目指していく。

(4)「商業集積促進関連制度利用件数(累計)」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P115 参照

●調査結果と分析



年度	(件)
	34 (基準年値) H23～27の累計
H28	-
H29	41
H30	72
R1	119
R2	147
R3	181
H29～R3の累計	50 (目標値)

※調査方法：前年度における商業集積促進関連制度利用件数を集計する。

※調査月：4月

※調査主体：秋田市

※調査対象：商業集積促進関連制度（小売業等チャレンジ支援事業、中心市街地出店促進融資あっせん制度、中心市街地商業集積促進補助制度（空き店舗支援）、商工業振興奨励措置事業）の利用件数

令和3年度事業件数内訳

	令和3年度
中心市街地商業集積促進事業補助制度利用件数	23
中心市街地出店促進融資あっせん制度利用件数	7
小売業等チャレンジ支援事業利用件数	0
商工業振興奨励措置事業利用件数（商工貿易分）	1
商工業振興奨励措置事業利用件数（企業立地分）	3

令和2年度事業件数内訳

	令和2年度
中心市街地商業集積促進事業補助制度利用件数	25
中心市街地出店促進融資あっせん制度利用件数	1
小売業等チャレンジ支援事業利用件数	0
商工業振興奨励措置事業利用件数（商工貿易分）	0
商工業振興奨励措置事業利用件数（企業立地分）	2

〈分析内容〉

商業集積促進関連制度利用件数(累計)の増加に向けた各事業については、概ね予定通り完了した。「中心市街地商業集積促進補助制度」を中心に順調に進捗し、計画策定当初に目標としていた50件を大幅に上回り、最終的には181件となった。

「中心市街地商業集積促進補助制度」が順調に推移した理由は、JR東日本や北都銀行による施設整備やABS秋田放送の移転、県・市連携文化施設の完成を見据えた旺盛な出店意欲があったものと考えられる。また、空きテナントビルのリノベーションや事業者・不動産業者への制度周知が進んだことも挙げられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 小売業等チャレンジ支援事業（秋田市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	起業創業を支援するために、中心市街地内の空きテナントを借上し、チャレンジショップの場を安価で提供することで、新たな開業と空き店舗解消を促進させ、商業振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 20 件／5 年 最新値 2 件／5 年 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	周知不足により応募者が少なかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	当該事業については、平成 29 年度までの実績を追加調査した結果、チャレンジショップ終了後の継続的な出店につながりにくいという結果となったことから、事業を見直し、平成 30 年度をもって事業終了としたものである。
事業の今後について	中心市街地商業集積促進補助制度がこれまでの実績を大幅に上回る利用となっていることから、今後は空き店舗等への新規出店に対し支援を行うことで、商業集積を促進し、さらなるにぎわいを創出することとする。

②. 中心市街地商業集積促進補助制度（秋田市）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗等への出店にかかる改装費、宣伝広告費および賃借料の一部を補助することで、新規出店を促し、中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成 29 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 10 件／5 年 最新値 144 件／5 年 目標達成
達成した（出来なかった）理由	本計画に基づく各種事業の完了を見据えた旺盛な出店意欲や事業者や不動産業者への周知が進んだこと。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 3 年度は 23 件の利用件数があり、計画策定以前の実績を上回るペースで制度が活用されており、中心市街地の空き店舗解消、にぎわい創出に寄与しているところである。
事業の今後について	空き店舗等への出店支援である本事業は、これまでの実績を大幅に上回るペースで利用されており、今後も引き続き制度の活用を図り、商業集積を促進していくとともに支援終了後のフォローアップを実施していく。

●今後の対策

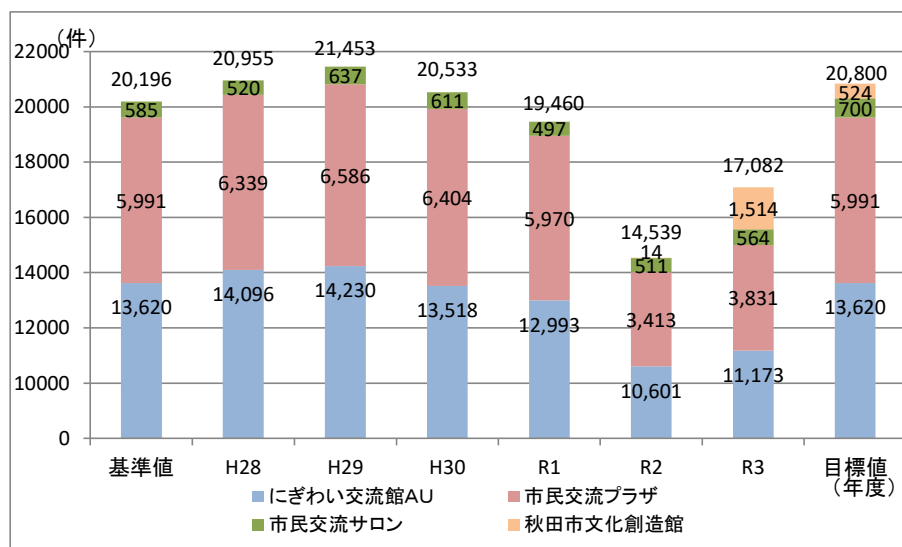
商業集積促進関連制度利用件数の対象制度のうち、「小売業等チャレンジ支援事業」については、実績や効果等を総合的に判断した結果、平成30年度をもって事業終了となったが、空き店舗等を活用した新規出店に対する支援策である「中心市街地商業集積促進補助制度」については利用が好調であり目標を上回る実績となった。

今後は令和2年4月に中心市街地に移転したインキュベーション施設である「チャレンジオフィスあきた」において、起業家同士の交流促進、幅広い層の起業家の掘り起こし、創業機運の醸成を図り、さらなる中心市街地の活性化に取り組んでいく。

(5)「市民活動等施設利用件数」(目標の達成状況【C】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P116 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H27	20,196 (基準年値)
H28	20,955
H29	21,453
H30	20,533
R1	19,460
R2	14,539
R3	17,082
R3	20,800 (目標値)

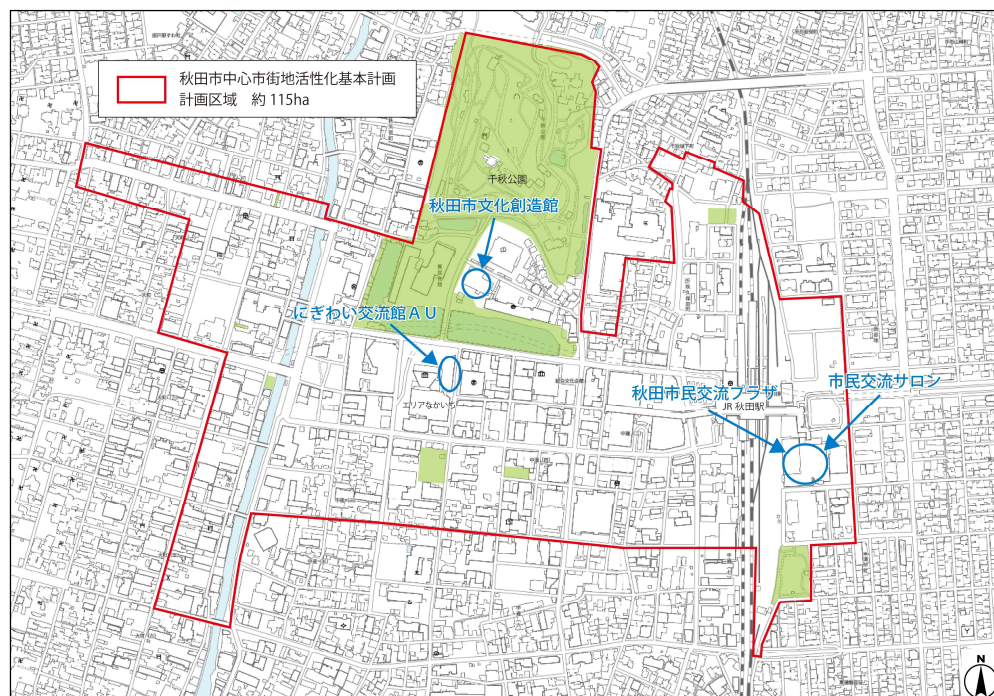
※調査方法：市民活動の場となる中心市街地内の公共施設（貸し会議室等）の利用件数を集計する。

※調査月：4月

※調査主体：秋田市

※調査対象：にぎわい交流館AU、秋田市民交流プラザ、市民交流サロン、秋田市文化創造館コミュニティスペースおよび秋田市文化創造館レジデンスホールの施設利用件数を集計する。

調査地点図



地点別内訳表

(単位：件)

	平成 27 年度 (基準値)	平成 28 年度 (計画前年度)	平成 29 年度 (1 年目)	令和 30 年度 (2 年目)	令和元年度 (3 年目)	令和 2 年度 (4 年目)	令和 3 年度 (5 年目)	目標値
1. にぎわい交流館 AU	13,620	14,096	14,230	13,518	12,993	10,601	11,173	13,620
2. 市民交流プラザ	5,991	6,339	6,586	6,404	5,970	3,413	3,831	5,991
3. 市民交流サロン	585	520	637	611	497	511	564	700
4. 秋田市文化創造館	0	0	0	0	0	14	1,514	524
合計	20,196	20,955	21,453	20,533	19,460	14,539	17,082	20,800

※目標値の合計は、百件単位でまらめているため、各地点の目標値の和と一致しない。

〈分析内容〉

市民活動等施設利用件数の増加に向けた各事業については、概ね予定通り完了したが、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少などの影響により、最新値は基準値を約 3,100 件下回る結果となった。しかし、秋田市文化創造館については、令和 3 年度の利用件数は 1,514 件となり、目標である 524 件を大きく上回った。

また、令和 3 年度においては、いずれの施設も対前年比で見ると増加しており、コロナウイルス感染拡大が収束すれば、更なる件数増加が期待される。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 秋田市文化創造館整備事業（秋田市）（再掲）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	空きビルとなっている旧県立美術館を改修し、市民が創造・発信できる多様な活動の場として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（平成 29 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 524 件／年 ・最新値 1,514 件／年 目標達成
達成した（出来なかった）理由	当該事業は令和 2 年度に改修工事が完了し、令和 3 年 3 月に開館した。令和 3 年度には 1,514 件の実績があり、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）524 件の約 3 倍となっている。市民が利用しやすい立地であることや様々なイベントやプロジェクトを開催したことが成功の要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	本館が整備され、市民活動の場が広がった。秋田県内外の多様な分野の専門家やクリエイターを招聘し、新たな活動を推進することや、市民活動のステップとなる講座やワークショップを開催した。新型コロナウイルス感染拡大の収束により、更なる市民活動等施設利用件数の増加が期待される。
事業の今後について	指定管理者と連携しながら、市民の創造力を育む学びと出会いの機会、活動のための環境等を提供し、通行量の増加を図っていく。

②. 市民協働・市民活動支援事業（秋田市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	秋田拠点センターALVE内の市民交流サロンにおいて、市民活動に係る各種講座の開催や情報提供、市民活動アドバイザーによる相談業務を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	市民交流サロンの利用件数 ・事業目標値 700 件／年 ・最新値 564 件／年 目標未達成。
達成した（出来なかった）理由	平成 28 年度に市内全 7 地域の市民サービスセンター設置が完了したことにより、より身近な場所での活動が可能となったこと、また各団体の自立が進み、独自に活動拠点を設ける動きが出てきたことから既存団体の活動件数が減少している。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、各団体の活動が制限されたため。
計画終了後の状況及び事業効果	市民活動のきっかけやスキルアップとなる各種講座の開催や情報提供、相談業務の充実、各団体間のネットワーク形成の支援および活動機会の提供などの環境づくりを進め、市民による主体的な活動を継続的に支援している。
事業の今後について	今後は、SNSなども活用し、市民交流サロンや市民活動アドバイザー等のさらなるPRに努めるとともに、地域に向いての市民活動実践講座を開催するなど、市民活動に参加・参画しやすい環境づくりにも努めていく。

●今後の対策

市民活動等施設利用件数については、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少などの影響により基準値を下回り、目標は達成できなかった。しかしながら、令和 3 年 3 月に開業した秋田市文化創造館の利用件数は目標を大きく上回る結果となり、当該施設を拠点として実施している文化創造プロジェクトの取組の更なる波及効果が期待できる。

前回（令和 2 年度）フォローアップに関する報告においては、新型コロナウイルス感染拡大が収束し文化創造プロジェクトの取組も合わせれば達成可能と見込んでいたが、本社会状況の継続により、達成できなかった。

今後は、芸術文化ゾーンを中心にソフト面での支援を継続していくことで市民活動等施設利用件数の増加を目指していく。